

[令和4年度] 第1回 飯田市新文化会館整備検討委員会 会議録

会議名称	第1回 飯田市新文化会館整備検討委員会
開催日時	令和4年6月10日(金)午後7時～午後9時20分
開催場所	飯田文化会館 1階 展示室
出席委員(敬称略)	片桐啓、上沼俊彦、川崎好昭、塩澤哲夫、高松和子、田中悦雄、原田雅弘、黒河内智子、賜正俊、飯島剛、桑原利彦、小西盛登、小木曾俊夫、遠山あづみ、前澤正徳、森本典子、小澤櫻作、佐々木宏幸
欠席委員(敬称略)	山元浩
オブザーバー (敬称略)	井坪隆
出席事務局職員	佐藤市長、熊谷教育長、松下参与(教育次長事務取扱)、下井文化会館長、筒井補佐兼文化会館建設担当専門主査、木村事業係長、山崎人形劇のまちづくり係長、中島会計年度職員
会議の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 あいさつ 3 自己紹介 4 正副委員長の選出 5 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 新文化会館整備検討委員会の目的、役割について (配布資料No.1) (2) 今後の進め方について (配布資料No.2) (3) 意見交換(ミニワークショップ) 6 事務連絡 7 閉会

※公表の会議録(発言)には委員の氏名を掲載いたしません。

1 開会

○松下参与 皆様こんばんは。

定刻となりましたので、まだお見えいただいてない方もおいでになりますけれども、ただいまから飯田市新文化会館整備検討委員会を開催させていただきます。

よろしくお願いいたします。

本日は、大変ご多用のところご出席いただきまして誠にありがとうございます。私は、飯田市教育委員会で参与・教育次長職を務めております松下徹と申します。

よろしくお願いいたします。

この委員会につきましては、新文化会館の整備の方向性を市民の皆さんからご意見をい

ただきながら検討するに当たりまして、ご意見をいただく委員会として設置をさせていただきます。この会議の性格としますと、市長の私的諮問機関という位置付けとなりまして、皆様方の協議、意見交換の中でいただいたご意見を参考に新しい文化会館の方向性を決定していくというような形になります。

委員会につきましては、飯田市の新文化会館の整備検討委員会の設置要綱に基づいて運営させていただきますけれども、会議は市長が必要に応じて招集すること、また運営に関して必要な事項につきましては市長が定めることとなっております。後ほど会議の議長をしていただく委員長を決めたいと思いますけれども、まだ正副委員長が選出されておりませんので、それまでの間、私が司会を務めさせていただきます。

よろしくお願いいいたします。

なお本日、学識委員である山元委員からご都合により欠席をされるというご連絡をいただきました。また、遠山委員さんからも遅れてお越しになるということで、ご連絡をいただいております。その他の委員の皆様方につきましては、ご出席をいただいております。

初めに新文化会館整備検討委員の皆様への委嘱状の交付、これ本来させていただくべきところでありまして、大変失礼でございますけれども時間の都合上、机の上に委嘱状をお配りをさせていただいております。

ご容赦をいただきたいと思います。

なお委員としてお願いをさせていただいた皆様方につきましては、次第の裏面に名簿を掲載してございますのでご確認をいただければと思います。

また委員会において必要があると認めますときには、その会議に専門的事項について、学識経験を有する方、その他関係される方の出席を求めて、その説明または意見をお聞きをするということも考えております。その辺は柔軟に考えてまいりたいと思いますのでよろしくお願いをします。

また、いわゆるオブザーバーという形でありますけれども、本日の会議は井坪 隆さんに出席をいただいております。

井坪さんにおかれましては、現在、飯田市議会の議長でもいらっしゃいますけれども、元来音楽家として様々な文化活動にご尽力をいただいて、牽引をいただいております。そういった意味から、今回は当市の文化活動に造詣の深い方というお立場からオブザーバー参加、出席をいただいております。

よろしくお願いいいたします。

なお委員の皆様方におかれましては、6月10日、本日から令和6年の3月31日までの任期で委嘱を申し上げますので、よろしくお願いをいたします。

当面、現時点においては、2年間の任期ということをお願いしたいというふうを考えておりますけれども、これにつきましても進捗状況によって多少期間を延長させていただくような場合もございますので、その際には皆様に改めてご相談をさせていただきます。こ

の点についても、柔軟にご検討いただきますようによろしく願いをいたします。

それでは次第に沿いまして進めさせていただきます。

2 あいさつ

○松下参与 まず、佐藤飯田市長から皆様方にご挨拶を申し上げます。

○佐藤市長 皆さんこんばんは。

飯田市長の佐藤でございます。今日は、第1回の新飯田文化会館整備検討委員会ということでお集まりをいただきましてありがとうございます。

また、このたびのこの委員会につきまして、それぞれ委員をお引き受けいただきましたことに心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

現在、コロナ禍ということで、いろいろな文化活動が制約を受けているそういう環境ではあるわけですが、今年度になりましてオケ友も3年ぶりに実施をできたということでもありますし、また今、人形劇フェスタに向けていろんな準備を進めているそういう状況です。今までのコロナで、コロナを理由に延期・中止というのが習いになってきてしまっている、これを何とか工夫して開催をすると、そういう形にモードチェンジしたいということで今、市役所としても取り組んでいるわけですが、ぜひ皆様方の各団体におかれましても、コロナ禍の中でいろいろ大変ですが、ここから切り替えてやっていく、そんな形でお願いできればというふうに思います。

さて、先ほど松下の方から申し上げましたけれども、新文化会館の検討ということでお集まりをいただいております。今日、この会議をやっているこの文化会館、昭和47年の開館ということですので、今年で50年目を迎えます。建物としてはもう十分使ったということでありまして、これを建て替えたということでお集まりいただいているということでもあります。

市の長期財政見通しというのを昨年秋から冬にかけて公表いたしましたけれども、その中で何とかこの新文化会館、令和9年度着工というようなことで、建て替えできないかということ考えているわけでありまして、もちろんこのスケジュールありきで進めるということではありませんけれども、できればそういうふうにしたいということで財政見通しも立ててこの検討に入っているということでもあります。

いろいろな立場の方に今日お集まりいただいております。先ほど、名簿が次第の裏面にありますというお話を申し上げましたけれども、実際にこの文化会館をずっと利用してきていただいている皆さん、それから一般の市民の皆さんから公募で入っていただいている方、教育関係者、福祉の関係者、そして学識経験の方、いろんな立場の方に入っていただいて新文化会館の方向を見出したいということでもあります。

で、今日の会議もそうなんですけれども、マスコミの方にも入っていただいて基本的にはオープンな場で議論をしたいというふうに思っています。

市民の皆さんにとって非常に関心の高い新しい文化会館の検討ということになりますので、この議論のプロセス、議論の過程の段階から、ぜひ市民の皆さんにしっかり関心を持っていただいて、ある日突然「こう決まったらしい」というようなことではなく、議論のプロセスで今こういうことが検討されているとか、こういうことが論点になっているというように、できるだけ市民の皆さんに関心を持っていただきながら、最終的には市の方で責任を持って決めますけれども、その決めていくまでのこのプロセスにおいて、皆様方からいろいろなご意見をいただいて、少しずつ合意を図っていききたいということになります。

もちろん、いろいろな立場がありますし、市民の皆さんの声を聞いても、本当にもうものすごい豪華な大きなものを作ってほしいというそういう意見から、いやいや財政も心配だし実際に使うことを考えれば、身の丈に合ったというようなこともあります。

本当にいろいろな立場の方、考え方がいらっしゃるので、全ての方にとって満点というわけにはいかないと思うんですけれども、議論のプロセスを市民の皆さんと共有することで、ある着地点を見出すと、そういうことにしていきたいというふうに思っております。

委員の皆様には、本当にしんどい議論をしていただくということになるんだと思いますけれども、ぜひ活発なご議論をいただいて、市民の皆さんにその議論の過程がわかる、そんな委員会運営をしていただければというふうに思っております。

本当に50年も手がつかなかったというか、老朽化の課題はあったわけですが、なかなかその建て替えるってところのプロセスに入れなかった、それがようやく入れるということになったということで、比較的時間が短い中で濃密な議論をしていただくようなことになります。

そういうことも含めて、非常に大変なしんどい委員会かもわかりませんが、ぜひ皆様方のお力添えをいただいて方向性を見出したいと思っておりますので、何とぞよろしくお願いをいたします。

○松下参与 続きまして、熊谷飯田市教育長からご挨拶を申し上げます。

○熊谷教育長 皆さん、こんばんは。4月より教育長を拝命いたしました熊谷邦千加と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

日頃からそれぞれのお立場で、飯田市の教育行政にご指導あるいはご協力を賜っておりますことに心より感謝を申し上げます。

ありがとうございます。

さて文化会館では、市民との協働による地育力の向上というものを目指して、舞台芸術の鑑賞と創造、そして人形劇のまちづくり、この二つを柱としてまいっております。

市民の皆さんが、様々な芸術文化と出会うこと、その機会を提供するということとともに、市民の皆さんの主体的な文化創造活動の展開を支援しているということでござい

す。

また第二次飯田市教育振興基本計画では、取り組みの中に12の柱がございますが、その一つとして、文化力を高め心豊かな市民生活を実現するという柱を掲げてございます。

その中で、心豊かな市民生活の実現と、市民自ら主体的に取り組む文化芸術活動の支援、さらに多様な文化芸術に触れる機会の提供というものを目指しているわけでございます。これらに共通していることは、文化芸術活動の主体は市民の皆さんであるということであり、特に飯田の文化芸術活動は、市民の皆さんが主体的に関わる実行委員会方式というものを様々な形でとらせていただいております。

それは人形劇の祭典であったり、音楽祭であったり、様々な文化芸術活動が実行委員会方式で運営されているというというのが、この飯田市の特徴であり、一つの誇りでもあるかなあというふうにも感じております。

この文化芸術活動は、市民と市民団体、そして事業者の皆様、行政が力を合わせて作り出す過程が非常に大事ではないかというふうに思っております。

市民の皆さんが主体的に学ぶ意欲と創造性を高めて、その精神を豊かにしていくことが、まさに住みやすい、そして住んでよかったと思える心のふるさととなるような地域づくりにつながるのではないかと考えております。

教育委員会としましても、この方針に基づきながら、市民の皆さん、地域の皆さんが連携協働いたしまして、地域の文化活動、芸術活動が一層豊かなものになるように努めてまいりたいと思います。

それではここで、本日まで参加いただき、この委員会にご出席いただいております学識の委員の皆様方、3名お願いをいたしました、その先生方を紹介させていただきたいと思っております。

名簿順で失礼をいたします。

まずは、小澤櫻作先生でございます。

現在、上田市交流文化芸術センタープロデューサー、あるいは令和4年度、次期長野県文化芸術振興計画策定に関わる有識者懇談会などに関わっておられます。

小澤さんは、2008年から2013年までアフィニス文化財団に所属し、事業部部长として、主として飯田市で開催されたアフィニス夏の音楽祭をご担当いただきました。

これまでも経験されてきた様々なノウハウを是非ご教示をいただき、ご指導をいただいていたというふうにお聞きしております。

どうぞよろしくお願ひいたします。

続きまして、佐々木宏幸先生でございます。

明治大学理工学部建築学科、建築・アーバンデザイン研究室にて、公共空間の可能性を探求するために公共空間。特にストリート空間の活用に関する研究をされておられます。

飯田市においては、2017年から中心市街地をフィールドに、活性化のための活動研究を

進めておられており、裏界線を商業空間として利用することで、裏界線の商業利用の可能性を示されるなど、当市における研究と活動を継続しながら、都市と地方の新たな連携のあり方と可能性を模索しておられます。

また大学研究者のネットワーク組織である学輪 I I D A にもご参加をいただいております。ありがとうございます。

そして、今日のご欠席でございますが山元浩先生、名古屋フィルハーモニー交響楽団の演奏事業部長として、名古屋フィルの演奏企画を担当されておられます。

アフィニス夏の音楽祭では運営委員として、2006 年から飯田での開催を終える 2008 年まで運営に携わってこられました。

その後、2009 年に立ち上げた市民による市民のための音楽祭、オーケストラと友に音楽祭のパートナーオーケストラである名古屋フィルハーモニー交響楽団側の事務局としてご尽力をいただいております。

15 年間にわたってご指導ご協力をいただいております。

以上の 3 人の先生方をご紹介いたしさせていただきました。

3 人の先生方に共通してることは、飯田の文化活動やまち作りに関して、市民の皆さんとともに考え、共に作り上げてこられたということではないかと思っております。

これからの飯田の新しい文化会館のあり方につきまして、的確にアドバイスをいただけることと思っております。

委員の皆さん方には、これから 2 年間という長期にわたってお世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。

3 自己紹介

○松下参与 それでは続きまして、次第の 3 として、それぞれの委員の皆様方から自己紹介をお願いしたいと思います。

時間の都合上ですけれども、多少どのくらいの時間でというふうにお伝えした方が、それぞれ皆さん自己紹介していただきやすいかと思っておりますので、大体の目安をすいませませんが、20 秒～30 秒くらいということで、この委員会に参加をいただく上でのお気持ちを多少添えていただいて、それぞれの皆様方から自己紹介をいただければと思います。

順番につきましては、恐れ入りますけれども次第の裏面の名簿の順に、片桐委員さんの方から順にお願いできればと思います。よろしくお願いいたします。

○委員 皆さんこんばんは。

ここにあるとおり「おいでなんしょ寄席」って飯田の市民の落語会でございます。実行委員長です。

平成元年に始まりましたので、既に 34 年を経過しております。去年、一昨年はコロナで実行できませんでしたが、もう既に 40 数回になる歴史ある落語会で、企画のプロデューサー

一の方が寄席文字の第一人者で飯田の出身の方ですので、自分で言うのもなんですが、おそらく市民レベルの落語会としては、断然、飯田の歴史というのは、ハイレベルな落語会であります。

既にあの世へ行ってしまったお師匠方もたくさんおいでになりますが、素晴らしい会だと我ながら自信を持っております。

次に続けるために頑張りたいと思います。

一言余分ですが、50年前に私、高校3年で音楽活動してまして、お披露目のステージに上がって演奏させてもらいました。そのことは、今でもよく覚えております。

足を引っ張らないように頑張らせていただきます。よろしくお願いします。

○委員 皆さんこんばんは、名簿番号2番です。

団体としてそこに書いてございます「萩元晴彦ホームタウンコンサート実行委員会」ということで、20秒じゃちょっと話きれないんですけど、萩元晴彦さんについてだけちょっとだけお話しさせていただきたいと思います。

飯田の馬場町出身のテレビと音楽のプロデューサーです。テレビマンユニオンという会社の初代の社長でございます。

事業としても、サントリーホールだとか、鎌倉芸術館、それからカザルスホールの立ち上げに関わって、長野五輪の開閉会式のプロデューサーも務めた方ですが、その方の思いを受けて飯田でコンサートを、室内楽のコンサートを続けています。もう25年以上になると思いますが、そんな中で今回のこういう新文化会館の立ち上げに関われるという、多分、萩元さんはもう今から20年前ほどに亡くなられてるんですが、多分あの世で、「上沼さん僕らの代わりにお願いね」って言ってそうな気がします。

微力ながら、皆さんの足を引っ張らないように頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

○委員 皆さんこんばんは、飯田文化協会の副会長を務めさせていただいております。

以前から文化協会としましても、この文化会館の新しく改築ということを目指して、それがようやく動き出したということで非常に私個人としてもわくわくしているという状態です。

文化協会は、出演する皆さんが運営まで携わって、一般の方が全て行うという芸術祭、伊那谷文化芸術祭、こちらを開催しておりますけども、コロナ禍の影響で2回ほど中止になったということで今年は、是非ともやりたいなあということで動いております。

また一つよろしくお願いいたします。

○委員 こんばんは、オーケストラと友に音楽祭の実行委員会から来ております。

先ほどお話がありましたように、3年ぶりに開催することができました。実は、去年も一昨年も、ちょっとだけできることをやろうということで取り組んできておりました。

この委員会で、どんな方針を出せるか、使わせていただいている立場として考えていき

たいと思っております。

よろしく願いいたします。

○委員 よろしく願いいたします。

人形劇の関係で多分ここにお招きをいただいているんだなというふうに思っております。

人形劇との関わりは、カーニバルの10年のときから、カーニバル10年、フェスタになって15年、関わらせていただきました。今はいいだ人形劇センターの理事長でございます。

人形劇のまち飯田っていうのを掲げておられるんですが、そのもとで何をやったらいいんだろうか、どうしたらいいんだろうかっていうのが、日常の悩みでございます。

よろしく願いいたします。

○委員 こんばんは、飯田文化会館の舞台芸術鑑賞事業企画委員会の〇〇です。

今までいろんなタレントさんをお呼びして、その都度、この会館は使いやすいのか使いづらいのか、キャパが小さいのか大きいのか、いろいろいくつも問題はございました。

これから将来に向けての使いやすい文化会館ができればと、少しでもお手伝いできればと思います。

よろしく願いします。

○委員 こんばんは、いいだ人形劇フェスタ実行委員会で実行委員長を務めさせていただいております。

よろしく願いいたします。

昨年は、5分の1程度の規模の開催を、一昨年はいわゆる公演の事業はなしということで、今年3年ぶりになるのですが、今の現状でいけば何とかフル開催に近い形で開催ができるのではないかなというふうに思っております。

先日、人形劇人の全国組織の総会に出席をさせていただきました。そのときにも、「今年こそは飯田はやるんだよね。」そんな声が、もう会う人会う人から言われました。

それだけ、全国の人形劇人そしてお客様たちも飯田なりフェスタなりに対する思いが非常に強いんだなってことを改めてこの2年間のブランクがあったことにより、一層、強く感じております。

今、きな臭い世の中になっていますが、以前、非常に印象を深く見た写真があります。それは多分シリアかどこかだと思んですが、戦争で瓦礫の山になった街の中にポツンと人形劇のケコミが立っていて、その前に子供たちが群がって人形劇を見ている。

我々はこれから箱の話をするんでしょうけれども、やっぱり箱云々よりも、やはりそこに集まる人たちの心であるとか、喜び感動そういったものをどれだけサポートできるのか、そういったことを我々は考えていかなきゃいけないんだろなというふうに思っています。

昨年も本当に久しぶりに人形劇を見た子供たち、ものすごいこう、満面の笑顔で、人形

劇を待ってたんだなってことを感じています。

そんな文化をこれから飯田を一つの母体として育てていけたらいいなというふうに思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○委員 こんばんは、お世話になります。

認定こども園、飯田市にあります認定こども園の代表としてこの場に立たせていただいています。認定こども園とすれば幼稚園の子供たち、そしてそれに関わる保護者の方々、それぞれがいますので、ぜひ子供たちの意見というか、子供たちがよりこれから健やかに成長するための一つの糧として、文化会館が、いろいろな意味で利用しながら、子供たちの成長に役立つといいなと思っています。

それでまた保護者の方からの意見もいただきながら、少しでも、お役に立てればなと思っています。

よろしくをお願いします。

○委員 こんばんは。

飯田市長会長の代表としてまいりました。よろしくお願いいたします。

文化会館は、飯田市のみならず、下伊那郡全体の小・中学校が毎年、郡音という形で合唱を披露し、非常にホールが感動に包まれるということできずと来てました。

ただ、このコロナ禍で一昨年・昨年度とそれができずに、今年度も郡音という形ではできないだろうなというふうに今考えてるところです。

それ非常に残念なんですけど、コロナが収まったらまた再びこのホールで下伊那の子供たちの歌声が響き、感動を分かち合える、そういうふうになっていければいいなと思っておりますので、新しい文化会館にも子供たちの声が響く素晴らしいものになっていくことを期待したいなあと考えております。

力になれるかどうかわかりませんが、一生懸命考えてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○委員 皆さんこんばんは。

所属団体のところを見ていただくと、ちょっと場違いな感じの経歴なんでございますが、市民の皆さんの文化芸術活動を支援してきたっていうのを仕事としてきたっていうことで、メンバーに加わらせていただいたのかなと思っております。どんなことが、役割が果たせるかわかりませんがよろしくお願いいたします。

○委員 皆さんこんばんは。

11番目の「飯田の文化芸術を元気にしたい会」ということで来ています。

いろんなところに僕は関係しているんですけど、それこそ先月からは、駅前のムトスぷらざで、創発コーディネーターマネージャーということでいろんな人たちを繋げるという仕事を始めたわけですが、先ほど市長もおっしゃってたとおり、やっぱり文化会館についてこんなふうにしてほしいっていろんな、いろんな思いの人たちがいると思うんですね。そ

こ、ムトスぷらざでも若者チームや高校生のチームを作ってるわけですけど、本当にいろんな考えを持った人たちがいる。

でもできるのは一つしかできないって言ったときに、どんなものにしなくちゃいけないかっていうのは、本当いろんな人たちの意見を先にたくさん聞いて、やっぱり飲み込んでもらえる部分は飲み込んでもらうから、実現するところは実現するっていう形をやっぱり取っていききたいななんて思っています。

僕自身が演奏家ということもあって、この文化会館はずいぶん出させてもらったりとか、それからプロデュースでバックでいろいろやったりとか、いろんな立場で物を見て頑張っていきたいと思います。

ちなみに、その後、飲み歩くのも大好きなんで、そういうことも総合的にいろいろ考えていきたいなと思います。

佐々木先生には、りんご並木の方でずいぶんとお世話なっています。

よろしくお願いします。

○委員 皆さんこんばんは。

12番目にあります、飯田市公民館会館長会の会長をさせていただいています。飯田市公民館長としてもお世話になっております。県公民館の館長をしております。

よろしくお願いいたします。

もう公民館の活動は皆さんご案内の通りだと思いますが、飯田市公民館をはじめとしてそれぞれ各地区公民館が、20地区それぞれ地区独特のそれぞれの活動を展開をしております。

公民館の活動の中で、文化活動も当然取り組んでおりますけれども、飯田文化会館が公民館の、地域の文化活動の発表の場になるっていう、そういう場所だというふうに思っておりますので、それぞれの各館のまた思いを皆さんにお伝えをしながら、ご一緒に検討してまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○委員 皆さんこんばんは。

私はここに書いてありますように飯田市身体障害者福祉協会の副会長兼事務局兼会計を担当しております。

福祉分野を代表して、という形になるんでしょうか。大変責任を感じておりますが、皆さんと共に努力しながら良い文化会館ができるように頑張りたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○委員 公募委員としてまいりました。よろしくお願いいたします。

先ほど、明日、中体連に行く長男の用事がなかなか済まず遅刻いたしました。大変失礼いたしました。

私は10年ちょっと地元東野公民館の委員として携わらせていただきまして、現在、広報委員長2期目3年目を務めております。長い間、文化会館がある地元として、文化会館と

ともに暮らしてきた地元東野の人たちの声でしたりとか、あと子育て世代ということもありまして、どちらかというとな般利用者の立場として、何か意見が言えたらいいかなと思っております。

よろしくお願いいたします。

○委員 こんばんは。

私は2年ほど前に、ちょうど久しぶりにというか40数年ぶりに飯田の方に帰ってきました、それまでは何をしていたかと言いますと、舞台技術の方の仕事を、基本的には舞台照明の仕事をやってまして、そうですね、40歳過ぎまでは全国各地のホール等々を回っておりました。それで2004年からは、まつもと市民芸術館の技術部の照明のチーフとして、ずっと2年ほど前まで勤めておりました。

技術の観点から何かお話が言えればと思ひ応募しました。

よろしくお願ひします。

○委員 初めまして。一般公募でありがとうございます。

私は趣味をいろいろやっています、ダンスとか歌とかやっていますが、そのダンスは、今は公民館の社会教育団体の登録をさせていただいてやっております。

歌の方は、文化会館の事業の市民舞台芸術創造支援事業の支援をいただいて、プロの指導を仰いでおります。市民がたくさんそこに参加して活動している中の一人なんですが、それで舞台に立つこともありますし、他に見るのも大好き、舞台を見るのも大好きで、それこそ文化会館50年経つんですが、飯田子ども劇場っていう自主運営の会があって、その会をずっとやってまして、子供のときにいつも文化会館に来ると素敵なお芝居や歌が見られて子ども劇場のための会館だと小さい頃は思っていたくらいです。

そんな、見る立場、見る側も、利用する側も、舞台に立つ側の立場でちょっといろいろお話を聞かせていただきたいなと思ひました。

よろしくお願ひします。

○委員 皆様こんばんは。

先ほどご紹介いただきました上田市交流文化芸術センターサントミュージーゼから来ました。どうぞよろしくお願ひいたします。

私は飯田市さんとの関係と言いますと、先ほどご紹介いただきましたとおりアフィニス夏の音楽祭で2007年・2008年お邪魔させていただきました、その後も何度かアフィニスのコンサートできた記憶がございます。

その時には、いろいろな音楽祭に参加させていただいたこともあるんですけどもアフィニス夏の音楽祭、飯田市さんというのは、すごく市民の皆様との距離が近くて地域の熱量を感じるっていうような、温かい音楽祭であったという記憶がございます。

そんな記憶がありまして、実は今、上田市に勤めているんですけども、上田市とは特に何か縁があったゆかりがあったということは全くなくて、京都出身です。

ただですね、上田市がサントミュージゼを作るっていうときにお声がけいただいて、建設の段階から入ったんですけど、飯田市さんにお邪魔したので長野県は親近感あるなと思って「あ、喜んで」って言ったんですけども、今日、電車で来たんですけどこんなに遠いっていうのは、長野県って広いですね。

サントミュージゼ以外でも様々ないくつかのホールで開館に向けて携わらせていただいているのですが、血の通ったというか、元気なホールを、アフィニスから見ていたホールさんが建て替えていくという姿に携わるのが今回初めてになります。とてもワクワクした思いでおります。

どうぞよろしく願いいたします。

○委員 皆さんこんばんは、先ほどご紹介をいただきました明治大学で建築・アーバンデザイン研究室というのを主催しております。

後ほどのトークセッションで、少し飯田市との関わり等は紹介をさせていただく機会がありますのでそちらの方は省かせていただきますけれども、非常に皆さん飯田の文化というものに多様な形で携わっていらっしゃる委員の皆さんがいらっしゃいますので、私も文化の真ん中にいるというよりは文化の外側からそういったものを眺めて、どうふうを活用できるか、育てていけるかということを考える立場でおります。

皆さんといろいろと意見を交換しながら、飯田の文化をより発展させるようなそういった意見交換をしていければというふうに思いますのでよろしく願いいたします。

○松下参与 それではオブザーバー参加をいただいております○○さんからも自己紹介をいただければと思います。

○オブザーバー 改めましてこんばんは。

先ほどの造詣が深いというようなお話をいただきましたが、それはとんでもないわけでございまして、私はただただ音楽に熱い思いを持って、68年間生きてきたということだけでございます。

たった一つ言えることは、飯田市民吹奏楽団の立ち上げもそうですし、私、吹奏楽団の団員なんです、それからオーケストラと友に音楽祭の立ち上げもそうなんです、いずれも自主自立ということを非常にこだわって、関わってきたつもりであります。

特にオーケストラと友に音楽祭の方は、アフィニス財団という主催者から、いかに市民の手に取り戻して音楽祭をやろうかと、そのことに大変、力を注いだつもりでございまして、飯田の持って生まれた、この飯田の地域にずっとDNAで伝わってます「自分たちでやっていく」ということを、具現化できたらなというふうに思っております。

全く素人でございますのでどうなるかわかりませんが、皆様のご協力をいただきたいと思います。

最後に飯田の新しい文化会館が館というものよりも、みんなが集まる広場、そんなところになるように考えられればいいなというふうに思います。

よろしくお願いいたします。

○松下参与 それでは続いて、文化会館の事務局職員の自己紹介をさせていただきます。

○下井館長 文化会館館長の下井と申します。よろしくお願いいたします。

○筒井補佐 お世話になります。この文化会館の整備建設の担当を4月から行っております筒井と申します。よろしくお願います。

○山崎係長 お世話になります。人形劇のまちづくり係の山崎と申します。よろしくお願いいたします。

○木村係長 こんばんは、事業係木村でございます。よろしくお願いいたします。

○中島年職 こんばんは、事業係の中島です。よろしくお願います。

○松下参与 自己紹介いただきまして誠にありがとうございました。

それぞれの委員の皆さん、またオブザーバー参加をいただいた井坪さんにおかれましては改めてお世話さまになりますけれども、よろしくお願いをいたします。

4 正副委員長の選出

それでは次第の4に進めさせていただきますけれども、この委員会の正副の委員長の選出をお願いをしたいと思えます。

委員会に委員長また副委員長各1名を置いて会議の進行をお願いをしたいというふうに考えております。

委員長、副委員長につきましては、委員の皆様の互選によりお決めにいただきたいというふうに思いますが、これをどのようにお取り扱いしたらよろしいでしょうか。ご意見ございましたら頂戴をしたいと思えます。

○委員 ちょっとご提案でございます。

事務局に案があればお願いをしたいと思えますが。

○松下参与 はい。それでは事務局の方に腹案があればということでありますので、私の方から事務局案ということでご提案をさせていただいてもよろしいでしょうか。

(賛意を表す声あり)

○松下参与 それでは提案をさせていただきます。

委員長に、名簿番号4番、塩澤哲夫委員にお願いをできればと思えます。副委員長でありますけれども、名簿番号2番、上沼俊彦委員にごお願いをできればと思えます。

ご提案を申し上げますけれども、皆様方はいかがでしょうか。

(拍手多数)

○松下参与 ありがとうございました。

出席の皆様のご賛同をいただきましたので、本会の委員長については塩澤委員に、また副委員長につきましては、上沼委員に決定をさせていただきます。

それでは、正副の委員長さんについては、正面の正副委員長席の方へご移動いただけれ

ばと思います。

(正副委員長着席)

○松下参与 それでは、塩澤委員長さん、また上沼副委員長さんに一言ずつごあいさつをいただいて、ここからの進行については委員長さんをお願いしたいと思います。

よろしくお願いいたします。

○委員長 皆様のご賛同をいただきましたので、委員長を務めさせていただきます。

皆さん、それぞれのお立場から、あるいは個人的にご意見、活発なご意見をいただいて、共通になる部分、適正になる部分をこうまとめていけたらなと思っています。

どうぞよろしくお願いいたします。(拍手)

○副委員長 同じく副委員長に選出いただきました上沼と申します。

先ほど申し上げたとおりでございます。

コンサート等に、まあアフィニス夏の音楽祭にも10年ほど、それからオケ友の立ち上げから今までも、この萩元晴彦ホームタウンコンサート以外にも携わらせていただいております。しかし、私はあんまり文化的な人間じゃないんで、この場にあまりふさわしいとは思いませんが、委員長の塩澤先生を微力ながら支えて、皆さんの意見の集約に努めていければというふうに思っておりますのでよろしくお願いいたします。

5 議 事

○委員長 ありがとうございます。

それでは本日の会議の進め方について、事務局からお願いいたします。

○下井館長 それでは私の方から会議の進め方ということで、今日の次第を見ていただいて、5の議事というところがございますけれども、(1)番、(2)番、この後、説明させていただき、(3)番では、グループに分かれていただいて意見交換をしていただくと、こういう時間を取りたいと思います。

それから先ほどもお話ありましたけれども、この会議はオープンな会議ということでございます。

議事録それから今日の資料もですけれども公開してまいります。

実際の議事録については、個人のお名前ではなく、「委員」という形で表現させていただいて、発言内容は載せさせていただくということでご理解をいただきたいと思います。

よろしくお願いいたします。

○委員長 はい、ありがとうございます。

(1)新文化会館整備検討委員会の目的、役割について

○塩澤委員長 それでは早速議事に入ります。

1、この委員会の目的、役割について、事務局お願いします。

○下井館長 それでは、お手元に資料No. 1 というのを用意させていただいております。A4判の横版ですね。

早速ですが、これについて説明をさせていただきます。

大きな1番の新文化会館整備の必要性、これはもう今までの話の中で説明するまではないと思います。50年経過したということでございます。

それから大きな2番の、この整備検討委員会の目的・役割ということでございますが、1つ目の二重丸ありますけれども、先ほど来お話が出ておりますが、舞台芸術鑑賞の創造それから人形劇のまちづくりという、こう大きな柱があるわけですけれども、代表的なものはオケ友、それから人形劇フェスタ、それから伊那谷文化芸術祭と、こういうことだと思えます。いずれも市民の皆さんが主体的な文化活動を行っているということでございます。

それから2つ目の丸については、実際のこの委員会ということで、今日、お集まりいただいた皆様に議論をお願いしたいということでございます。

3つ目の丸であります。飯田市の市民憲章、それから岸田國士の言葉、そういったものがこの飯田の文化ということに基づいた理念や構想を実際に検討していただくということでございます。

もうちょっと言いますと、何か箱物を作るというところではなくて、やはり飯田の文化って何だろうってところから議論を始めたいと思えます。場所の話もあるわけですが、このことについてはこの委員会とは当面切り離していきたいと、こういうふうを考えておりますのでよろしくお願ひします。

それからその下の図に基本構想から実施設計まで箱が並んでおります。こういった議論を進めていくということになると思えます。

それで、この中でも一番大事にしたいのが、一番左のところの箱の中にある箱です。基本理念であります。この構想全体を貫く、まさに貫くこの基本的な考え方、これが一番大事かなというふうを考えておりますので、ここの議論には時間をかけていきたいというふうに思えます。

それから、だんだん基本計画、必要な機能とか、施設規模とかを書いていくことになると思えます。

それから、基本設計、レイアウトそれから実施設計ということで、これは具体的な本当の設計図ということになってまいります。こういったものを積み上げていくということで、まずは基本構想・基本計画をこの委員会で考えていきたいということで、この委員会の目的・役割ということでご理解をいただければと思えます。

説明は以上です。

○委員長 ありがとうございます。

ただいま、1について説明をいただきましたけれども、何かご質問等ありましたらご発

言をいただきたいと思いますが、挙手をしていただいて、お名前をおっしゃっていただくから、着座のままで結構ですので、ご発言いただくようお願いいたします。

質問等ございますでしょうか。

どうぞ、〇〇委員。

○委員 今のお話でこの委員会の役割についてお話をいただきました。理念・構想に基づいたところの話を中心に進めていくということで、場所については、また別というようなお話もいただいたような気がするんですけども、委員の皆さんも、その場所については非常に關心がある話じゃないかなというふうに思うんです。

ここでいろんな皆さんの思いをこう整理をしていくことを踏まえて、ぜひ教育委員会、また飯田市として場所については十分検討していただいて、また、この会にも、時期を見て、是非、飯田市教育委員会、市としてはこういうところについてというような、そういうご提案もいただくことをぜひお願いをしたいと思います。

そうしないと、なかなか想いは語るんですが、想いの先にはやっぱり場所っていうところへつながっていくところがあると思いますので、是非そこら辺をお含みをいただいて、当局の方でご検討、整理をいただければということをお願いをさせていただきたいと思いますので、要望としてお聞きをいただければ嬉しいです。

よろしくをお願いします。

○委員長 事務局何かお答えありますか。

どうぞお願いします。

○下井館長 今、場所のことのお話がありました。なかなか場所は難しいところがございまして、当面この委員会では場所のことは扱わないようにいきたいと思いますが、やはり場所は重要な課題だと思っています。ですので、同時並行的に、いろんなその場所について、いろんな評価といいますか、ポイントを絞って、できるだけ客観的な評価をしつつ、検討していく中のいずれかの時点でそれが合わさるというようなイメージを持ちながら、まずは市として、基本的な調査をしていきたいと思っております。

○委員長 いいですか。

松下参与さん。

○松下参与 重要なご意見ですので若干補足をさせていただきますけれども、この文化会館も8,400㎡という広い敷地面積がございますし、今日お越しいただいた小澤さんが、今、プロデューサーとして関わられているサントミュージーゼについては、2ヘクタールという広大な面積を有しておいでになります。

いずれにしても一団の広い土地を確保していくということが、用地の選定の中では大きな課題になってきます。その中では法制度的な条件を整理していくということですか、地盤の安定性や地形の変更の可能性ですとか、周辺の環境を含めた環境条件、交通アクセス、そして何よりも用地確保の実現性といったようなことを様々な観点から、専門的に検

討していく必要があろうかと思っていますので、それについてはやはり行政の責任としてしっかりと調査をかけ、その上で選定をしていきたいと思っています。

しかしながら、先ほど〇〇委員さんの方からもお話がありましたけども、やはり基本理念や基本構想は、場所にも関わるところがあります。そのため、基本理念については、まず、この委員会の中で先行的にご議論をいただいて、どこに向かって、どういう機能を持った施設にしていったらよいかというところは、皆様方の意見、提言をいただきたいと思っています。いよいよそれに基づいて「基本構想を策定します」というときには、ただいまご意見いただいたとおり、具体的な機能のところに場所も深く関わってまいりますので、基本構想の検討の途中で、市の方でもできれば候補地についての情報の投げ込みをさせていただいて、それを含めてご検討いただき、構想の提案をまとめていただくというような、そんなような流れを考えていければと思っています。

ただいまも、ご意見をいただきましたので、市としても早期に場所の選定に向けた調査をしてまいりたいというふうに思います。今日のところは、そういうことをご理解いただければと思います。

今日のところは、そういうことをご理解いただければと思います。

○委員長 ありがとうございます。

お聞きのとおりですので繰り返しません。

他にご質問等ありますか。

(発言する者なし)

○委員長 よろしいですか。

はい、ありがとうございます。

(2) 今後の進め方について

○委員長 それでは続いて(2)今後の進め方について、事務局お願いします。

○下井館長 それでは引き続き資料 No.2でございます。カラー刷りのものですが、これをちょっとご覧いただきたいと思っています。この新文化会館の建設に向けた事業プロセスについてということでございます。

半分から下であります、スケジュールの見通しということでこう書いてございます。

先ほど説明ありましたが、財政的なことありまして令和9年度から建設工事に入りたいという今のところの思いであります、それを逆に追っていくといろんな計画作りを進めていく必要があるということでございます。

今年度、今ですね、令和4年度スタートしたということで、まずは理念の策定から入っていきたいということでお願いをいたします。

上の方の部分であります、左の方に4つの四角がございまして、これ4つの会議、会

議体を作っていきたいというふうに考えております。

まずは、その市文化会館整備検討委員会、まさにこの会議でございます。それからその下に市民ワークショップとありますが、これは新文化会館の建設というよりは、どちらかというともう実際にそれをどう使ったらいいかというようなことに視点を置いて市民の皆さんからご意見をいただきたいということで、メンバーは、これからまだまだ集めるというそういう段階でございますけれども、できるだけ若い方の意見が反映されるといいかな、高校生であったり、実際の文化芸術に携わる若い方のご意見がいただけたらいいかなというふうに思っております。

それから次の専門家会議でありますけれども、こちらの方は、まさにその文化の施設に関する専門的な知識の方をお願いしたいと思っております。地元の舞台技術者の方とか、あと他の地域の文化会館、そういった方に関係する皆様に構成をさせていただきたいと思っております。

それから一番下に施設利用者会議ということでございますが、これは実際に今、文化会館それから、旧という言い方になりますけど、市の公民館のホールを使っていた方、それから現在の鼎の文化センター、こういったホールを使っている方々と意見交換をさせていただきたい、こういった方々の意見も反映させていきたいと思っております。

それで、中心となるのはやはりこの、今日、皆様お願いしておりますけれども、整備検討委員会、こちらがやはり中心となって意見をお願いしたいなと思っております。

スケジュールとしては、戻りますけど、そういった下を書いてあるような流れで進めてまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○委員長 ありがとうございます。

ただいま2について説明を受けましたが、何か、質疑等ございますか。

(発言する者なし)

○委員長 よろしいですか。

ありがとうございます。

(3) 意見交換（ミニワークショップ）

○塩澤委員長 それでは、(3)の意見交換（ミニワークショップ）に進みたいと思っておりますが、まず3人の学識委員の方から話題提供をいただき、その後に班ごとによる意見交換ということになります。

進め方について事務局お願いします。

○下井館長 それでは、次第にございますけれども、ミニワークショップに入ってまいりたいと思っておりますが、繰り返しになりますけれども、この飯田の文化というものはどういうものかというところを、まずは掘り下げていきたいなと考えておりますが、その話題提供として、学識の方、今日3名のうち、お二人でありますけど来ていらっしゃっておりますので、まずは

そのお話を伺うということでございます。

その後、班分けして、班はレジメに書いてありますけれども、1・2・3班に分かれていただいて議論をいただきたいというふうに思います。

時間がそういうわけで少しだぶなくなってきたおるんですけども、できるだけ意見交換の時間を皆さんお願いしたいと思いますが、最後はやはりちょっとまとめていただいて、それぞれの班ごとで、わずかな時間になっちゃいますけれども、少し発表をお願いしたいというふうに思います。

それでは、まずは学識の方にベースのところのお話をいただきたいわけですが、今日、実は山元さんが欠席ということでございますけれども、ビデオメッセージをいただいております。

ですので、まずそのビデオメッセージを見ていただいて、後お二人の、今日、出席のお二人の方にお話をいただきたいと思います。

準備の方はどうですか。行けますか。はい。

それでは、まず山元さんのメッセージをお願いしたいと思います。

○山元学識委員 名古屋フィルハーモニー交響楽団で演奏事業部長を務めております山元と申します。よろしく申し上げます。

本日、初回にも関わらず、こういう形で参加となりましたことをお詫び申し上げます。オーケストラの定期演奏会と今日が重なったものですから。伺いたかったんですがビデオ参加ということでお許してください。

私、飯田の町に通い始めて、かれこれ20年ぐらいになるんじゃないかというふうに思います。飯田文化会館というか、飯田の町で、平成の最初だったかな。アフィニス文化財団という日本中のプロオーケストラを支援する財団がありまして、そこが主催する夏の音楽祭、これを2008年まで20年間、飯田の町で音楽祭が開催されて、名古屋は近いもんですから個人的に遊びに伺ったこともありますけれども、最後の方の5・6年ぐらいは、音楽祭の運営スタッフとしても関わってたものですから毎年のように夏の暑い時期、音楽祭の期間中は、ずっと飯田に滞在してということでこちらにお邪魔していました。

また、2009年からは市民の皆さんが作られたオーケストラと友に音楽祭、もう、これももう14年になりますけれども、私ども名古屋フィルハーモニー交響楽団と一緒にやっていた音楽祭として開催していただいているんですが、当初から、事業の立ち上げのときからオーケストラ側の担当責任者として深く本当に関わらせていただいております、かれこれ20年ほど飯田の街にどっぷりとはまっているとそういう感じです。

また、個人的にも飯田の街の規模とか、この地理的な風景であるとかってというのが、私の田舎が宮崎県の都城市というところなんですけれども、以前、知事をしておりました東国原さん、彼が私は小学校・中学校の先輩に当たるんですが、その町で過ごしてまして、ちょうどこの飯田の盆地のこの地理的な条件であるとか、人口の規模だとかって、そうい

うものが非常に似ていまして、飯田に最初訪れた頃から非常に親近感を持ってこの町にお邪魔しています。

また音楽祭、アフィニスの音楽祭でずーと日本中のオーケストラの楽員であるとか、スタッフであるとか、また海外からも大勢の講師の方々がいらっしやってたわけなんですけれども、飯田町の皆さんのおもてなしの心というんだか、そのホスピタリティの素晴らしさにみんな心を打たれておりまして、毎回、私達が飯田に来ることを、みんな相変わらず日本中のオーケストラ関係者がいいなど。羨ましいなあということを未だに話しているような感じです。

今回、新しい劇場建設っていうことで私も関わらせていただくということで、少しちょっとお話をさせていただきたいと思いますけれども、たまたまなんですけど、飯田文化会館も今年50年ということで、名古屋市民会館、私どもがフランチャイズにしている一つのホールですけれども、名古屋市民会館も今年の秋に50年を迎えます。

そういうところで、こうまた関わってる劇場も似たような性格を持つてるところに私両方ともこう関わらせていただいているわけなんですけど、名古屋市民会館の方も同じように今建て替えの話が進んでいまして、実は、コロナに入る前に検討会を始め10回ほどの検討会を終えて、やっと今、基本構想をまとめ上げ、これから実施設計の方に入るそういう段階になっているところなんですけれども、飯田のこの町ならではの新しい劇場のあり方というか、これまで私が30年以上オーケストラに関わってきて、日本中のいろんなホールも利用させていただいておりますので、そういう中でいろんなことをちょっとお話させていただければなという、そういうふうに思っております。

そうですね、なんかこのアフィニスからずっとこちらに20年ぐらいお邪魔してて、飯田の皆さんのなんていうんでしょうかね。市民の皆さんが非常に芸術文化を身近に感じてらっしゃる。なんかそれが特徴の一つだと思うんですけども、それは多分、人形劇であるとか、いろんな伝統文化が昔から根付いていらっしやあって、それを今までずっと継続してこられた、伝えてこられたという、そういう土壤があつてのことだと思うんですけども、アフィニスの音楽祭からこのオーケストラと友に音楽祭、これに変わったときも、市民の皆さんが全くうろたえることなく、むしろ自分たちでこの音楽祭ちゃんとやっていけるんだというような力をこう私達も感じて、すんなりそれに乗っかることができ、もう14年をたとうとしていますが、多くの方々が自分も音楽、楽器を演奏したりとか、それ以外の楽しみ方もありますけれども、そういうことをやりながらまた運営面でも携わっていてやられてると、こういうことをやってらっしゃる土地っていうのは、日本中探してもなかなかないんじゃないかなというふうに思っています。

大体どこの地域でやってる音楽祭とかも、プロのそういう運営団体であったり運営会社が携わって、市民の皆さんどっちかというお客さんとして参加される程度だと思うんですけど、飯田の場合は、本当にいわゆる事業に市民の方々が直接的に関わってらっしゃ

る。

また文化会館の職員の皆さんも非常に熱心で、本当に長年ずっと変わらず私達に接していただくということで、長期的にいろんなことが計画をしやすい、またこちらも気持ちよく飯田と一緒に仕事をさせていただけると、そういう環境なんですね。

本当に私が知ってる限りでは、なかなか他の地域ではない特別な土地柄なんではないかなというふうに思っています。

なので新しい劇場を建設される時も、ぜひそういうものをうまく継承されるような形で、運営面であったり、施設面であったり、そういうところも考えていかれるのがよろしいんじゃないかというふうに思っております。

○下井館長 ありがとうございます。

続いて佐々木先生にお願いしたいと思いますが、機材の今ちょっと準備をしております。

今日といたしますか、学識のお三方いらしておりますけれども、外から見たこの飯田の文化ということでお話がいただけるものと思います。

それでは佐々木先生よろしいですか、準備よろしいですか。

お願いいたします。

○佐々木学識委員 はいそれでは話題提供ということで、私の方から、私と主に飯田市とのこれまでの関わりに関して話をさせていただきます。

先ほど来申し上げておりますけれども、建築アーバンデザイン研究室というのを主宰しております。

アーバンデザイン、都市デザインということなんですけれども、私が常々学生に言っているのは建築学科というと建物を作るのが目的のように思われるけれども、都市の大部分の空間というのは、実は建物と建物の間の空間であるという話をしています。なので私の場合には、先ほどから箱というような言葉も出ていますけれども、どちらかという箱そのものよりも、箱と箱の間をいかに埋めて都市を豊かにしていくのかというようなことに取り組んでいるというご理解をしていただければいいかなというふうに思います。

いろいろとご縁がありまして、実は30年ぐらい前に飯田市の方をアメリカに案内したというのが飯田市との最初の関わりなんですけれども、10年ほどアメリカに滞在して帰国して、またお声がけをいただきまして、飯田市のリンゴ農家さんであるとか、あとリンゴあるいは柿、市田柿を育てている農家さんと、それから飯田でいろんなまちづくり活動をされているような方々、それから高校生ですね。等とうちの学生がいろいろと大学での活動等を紹介したりしながら、いろんな形で関わらせていただいて、主に丘の上、橋南地区と橋北地区、桑原さんの方から少しお話をさせていただきましたけれども、まちづくり活動というのをやってまいりました。

先ほど箱と箱の間、建物と建物の間っていう話をしたんですけれども、飯田市を私が初

めて訪れたときに、裏界線という防火用の通路ということなんですけれども、空間的に非常に魅力があるなあということで、そこにスポットライトを当てようということで、裏界線小路というイベントを、並木天国の時等に同時に開催をさせていただいたりしながら、地元の高校生にも手伝ってもらいながら飯田のまちの活性化、中心市街地を元気にしていこうということで、あるいは実際に空き家になっている部分の改修等を提案しながら、関係者の人といろいろな意見を交換したり、丘の上に絡むいろんな活動をされてる方とワークショップをやったりとか、いうことで様々な活動をさせていただいてきました。

その中で、やっぱり我々普段東京でやってまして、活動してるんですけども、実際、地方に来てやってみると、とにかく魅力的な人や物や空間がたくさん散らばっているっていうことを本当に実感します。

まちづくりとかに携わっていると、もう本当に東京はそのうち、近い将来、地域に置いていかれちゃうんじゃないかというぐらい、地域に根を下ろして実際に活動されている方がいるということを感じました。

そういった中で、我々は東京の渋谷でも活動しておりまして、飯田市と渋谷区というのは防災協定を結んでいて関係があるんですね。

そういった中で、飯田市の座光寺地区から原宿の穂田キャットストリートというところに贈られたリンゴの木が植わってるんですけども、そのリンゴの木を収穫して座光寺に持ち帰りシードルを醸造するというので、座光寺表参道シードルというようなものも作っております。それを今度は飯田のイベントであるとか、あるいは原宿でのイベントでそういったものを販売をしながら、飯田の食に関わる方にも来ていただいて、そのイベントのときに実際販売をしていただいたり、あるいは飯田の知り合いの蔵から出てきた掘り出し物を、私の知り合いの東京の雑貨屋さんみたいなところがあるんですけども、そういったところで販売をしたりとかしながら飯田そのものを元気にすると同時に、この飯田の魅力を、全国に発信していくような、そんなような活動というものをこれまでやってまいりました。

我々から見た飯田の現状というのは、2027年、ちょっと遅れるかもしれませんがもしもリニアの新駅が開業し、名古屋まで30分東京まで45分で近い将来つながれるということ、で、そういったときにリニアの新駅周辺から15分ぐらい車で離れている丘の上が飯田のいわゆる市街地としてどのような魅力をこれから持ち続けるのか、あるいはさらにその魅力を作り出していくのかというのが、我々の活動の一つの大きなテーマになっております。

我々から見ると飯田の丘の上というのは、はっきりしたわかりやすい都市構造は持っているとは思いますが、目的地が分散点状にあるというのが非常に感じます。

東京の場合には、公共交通が発達していて、車利用よりも電車利用が多いんですけども、飯田はやはり車社会ということで、街をあまり人が歩いていないというのが正直な実

感なんですね。ところが驚くことに、いろんなお店に入ってみると驚くほど賑わっている。一体この人たちどこからやってきたんだろうというぐらい賑わっているということを感じます。

いわゆるその都市、我々が通常考える面としての都市の魅力というよりは、拠点の点在という形での都市の魅力みたいなものが出来上がっているような場所であるというふうに感じております。

その一方で、私共も中心市街地活性化基本計画という中で事業に参加をさせていただいてるんですけども、空き家店舗が増えてきているということ。すなわち使われていない空間資源もそこにあるということですね。

そういった活動を通して、人それからシードルとか水引とかリンゴとかの飯田のもの、それから非常に魅力的なだけけれども、空き家になっている空き店舗になっている、あるいは歴史的な建物がだんだんだんだんこう朽ちていくそういった空間、そういったものをどういうふうに連携をさせながら、飯田の町を元気にしていけるのかということを考えているという状況でございます。

非常に豊かな人がいて、豊かなものがあり、また気づきはないかもしれないけれども豊かな空間がそこに存在している。そういったところを今後、我々も都市デザインというものに関わる研究室として、どのようなことをやっていけるのかということで、今、丘の上でまずちょっと取りかかったことというのがあります。コロナ前までは、橋南地区でいろいろお手伝いをさせていただいてまして、少しその後ちょっとお声がけをいただいたので橋北地区というエリア、歴史的な建物が残っているエリアですけれども、そちらの方でも魅力的な複数の拠点をつくるという活動を始めておりまして、そういった飯田の都市空間の特性を活かしてそういった拠点が点在するようなそんなような都市空間というものを作っていかうということで、橋北地区の春草公園の周辺ですね。春草通りの部分で地元の人たちととともに考え作り動かすと、それで人物空間を育てていくという育てるデザイン。

何か我々が専門家としてトップダウンで何か決めるというのではなくて、まさにあの地域に根を下ろして活動している方と育てていくような、そんなデザインはできないだろうかということで、春草通りの周辺で、これは学生が作ったアイデアですけれども、例えばシードルカフェですとか、道端人形劇ですとか、展示場と広場といったようなこと、あるいは春草の公園と倉庫の前にある春草の里という建物を使って何かこう、建物の中に今、飯田の中で閉じこもっている魅力を外部外に引っ張り出さないだろうかというようなことをやっておりまして、我々はこれを阿智村の星のイメージに絡めて、何か一等星が散らばっているような星雲の丘というイメージで取り組んでおります。

最近では橋北春草テラスと、春をつくる、橋北地区、丘の上の未来をつくる、そんなような機会として春草テラス光のテラスと、旧飯田測候所を活用した光のテラスというよう

なイベントを行っておりまして、旧飯田測候所の芝広場であるとか、春草通りとかにイベントを通して、まずは人の賑わいを生み出していこうというような活動をしております。

最近では、東京の方にも発信をということで、原宿駅のすぐ前にあるウイズ原宿というところでのイベントをちょっと提案をこれからしようと思っているんですけども、そのイベントの一番のポイントに我々が据えているのが、地域を耕すカルチベーターということで、飯田のまちづくりに関わってる方々、あるいは文化に関わってる方々を見てみると、何か種を育てるというよりは、何か土から改良していくような、何か作物を育てるために何かこう土を耕しているようなイメージを我々非常に東京の人間から拝見していて受けるので、カルチベーターという耕す人というようなコンセプトを据えて、そういった人たちに焦点を当てるといようなイベントをやっていこうというようなことを考えております。

そういった意味で我々から見ますと、そういった飯田の非常に豊かな人や物や空間というものを活用しながら、どのような飯田の文化を育てていけるのか、そもそも地元の方が誇れる飯田の文化とは何か、それから飯田ならではの文化やあるいは空間資源とかを生かしながら、どういう飯田の暮らしを育てていくのか、そういった中で一つの箱、建物としての新文化会館がどのような役割を担っていけるのかと、そういったようなことに関しまして、皆様とこれからいろいろと意見交換をさせていただければというふうに思っております。

話題提供ということで、簡単ではございますが私からは以上で終わらせていただきます。

どうもありがとうございました。

○下井館長 ありがとうございました。

続いて小澤さんをお願いしたいわけでありましてけれども、佐々木先生には新しいものの見方というものを、何だかご教示いただいたかなというふうに感じております。

それでは続いて小澤さんをお願いしたいと思います。

よろしく願いいたします。

○小澤学識委員 改めまして小澤ですどうぞよろしく願いいたします。

すみません私座って喋るとちょっと緊張しちゃうタイプで、動いてないと喋れないという、まるでちょっとお魚みたいなタイプなんです。すみませんです。

佐々木先生のお話も山元さんのお話も素敵なお話でした、僕もいっぱいちょっとメモを取ってしまいました。ちょっと重なってる場所もあると思いますが、どうぞよろしく願いいたします。

東京から45分になるんですか。すごいですね。今日、僕、上田から5時間ぐらいかかったんですけども、あの5時間は何だったんだろうというふうに思っていました。

でも、こういうふうに移動が近くなるっていうことは、人が行き来していくんですけど

も、もちろん今コロナになりまして、山元さんのビデオメッセージのように、何かリモートで会議するというのがだんだん自然のようになって来ちゃって、これをコミュニケーションとして何か違和感がなくなって来ている自分がどうなのかなと思ってるんですけど、やっぱりこういうふうに対面っていうのはとても大切だになっていうのも感じながらっていったちょっと今日でした。

私からお話したいことなんですけども、話題提供ということで、私からは飯田の文化と舞台芸術というテーマをいただいております。

飯田の文化と言いますと、私すいません、正直、全く詳しくございません。飯田市さんには、それこそ2007年2008年の2年間、本当にアフィニス夏の音楽祭、最後の2年間スタッフとして参加させていただいたという感じなので全く詳しくはございません。申し訳ございませんです。

ただ、その2年間の音楽祭を通じてでも、本当におもてなしというのがその後、日本発信で全国ではやりましたけれども、その言葉っていうのは本当に飯田市さんにあったんじやないかと思うぐらい、本当におもてなしっていうのをいっぱい温かくいただきました。その中で、飯田市さんの文化っていうのもいっぱい触れさせていただきました。人形劇もそうですし、あと獅子舞ってありませんでしたか。すごく印象に残っています。

僕が知っている獅子舞とは全然違うもので、何だこれって、こんな獅子舞見たことないなというような、あと外国人のヨーロッパから来た先生たちが何だこれはって言ってね驚いておられたのがとても印象に残っております。

あと音楽祭では、滞在型のプロジェクトになりますので、やはり人形劇とか、獅子舞みたいな文化だけではなくて、街並みもそうですし、あとは食文化、いっぱい楽しませていただきました。あとは、ちょっと興味あるんですけども、歴史とかそういったところを見たかったんですけどなかなか時間がなくて見られませんでした。

ただ、地形から来る文化っていうのもあると思うんですね。この地形というのは、僕は関西出身なので、ちょっと独特な地形だなと思って、こういったところも非常に興味を持っていたっていうのを感じ覚えております。

さて、私は文化に対して詳しいわけではないんですけども舞台芸術の視点から言いますと、これが、どの人形劇もそうですし、獅子舞もそうなんですけれども、それがどのようにして伝わってきて、この街に定着をして、発展して、継承されて来たかというプロセスの方がとっても気になるタイプなんです。

なぜかと言いますと、私が専門にしておりますクラシック音楽の世界では、やはりモーツァルトの時代から、あの音楽家芸術家たちっていうのは、旅をしているあの人たちでした。旅をしながら、そのモーツァルトたちですと、やはり今の音楽家もそうですけど、自分たちの持っている技術とか、表現力っていうものをカバンに入れて、いろんな旅をしてそれを伝えていくっていう役割をしていまして、町の人たちっていうのは、その技術とか

表現力を見て刺激を受けて、それが地域に根付いていくっていう形だと思います。

もちろん音楽家たちは、その旅を通じて「あんな街でこんなリズムを聞いたな」と思って、それを帰って音楽にして、またそれを発信していくというようなサイクルがございました。

で、その旅をしているアーティストたちと、もう一つ大事なのが、その街にいるアーティストたちなんです。その人たちが、その旅をして来ているアーティストたちから刺激を受けて、あと発見とかもありますね。そういうを受けてその街で継承さらに発展させていく、次の世代を育成して継承していっているっていうプロセスっていうのがあったのじゃないかなっていうのを勝手に僕は妄想しております。

ここにいらっしゃる皆様は、先ほど皆様の自己紹介を聞いていて、この町に住んでいる芸術家たちだと思うんですけども、皆様もこれまでの間で旅をしてきた方っていうのは多いんじゃないでしょうか。学生の間、東京に行ってもものすごく刺激を受けて帰ってきてやってるんだっていう、その4年間の、「学生の旅っていうのも重要だったかもしれせん。

その地域に住んでるアーティストたちっていうのを、僕は地域文化の視点から言いますと、地域文化の担い手に当たる存在なのではないかというふうに常に思っております。その地域文化の担い手が刺激を受けて継承していくサイクルっていうのは、これまでもずっと脈々と各地域に残っていて、飯田市さんでもそれがすごく長く続いたんだと思います。この時代に生きている私達は、そのサイクルの中に私達もいるんだと思っております。

で音楽、僕は音楽を専門にしているのですけれども、やはり常に思っていることは、僕たちの世代がその終着点になってはいけないと。僕たちも、これを発展させて継承させていくっていうサイクルの一員になっているんだというふうに常々思っております。

ここにいろいろ考えていたんですけども、これから地域文化の持続可能な継承と発展を実現していくためには、現在に生きている私達っていうのが、どのように何を受け入れて、何を育て、何を継承していくかって考えることがとても大切なのではないかと考えております。

今は芸術家、今でも旅をしております。文化会館、劇場ができるということは、その今後、旅をしていく芸術家たちが立ち寄る大事な空間が出来上がるということになります。

ただ、それが単なる本当に建物だけでは、箱だけは駄目なんです。そこに集まって来る人たちっていうのが劇場を作っていく人たちだと思っております。

ただ、公共ホールっていうのは、「箱があっても中身がない」と言われていた時代は、ずっと長かったんですけども、今の時代はそんなことでは絶対ございません。アートマネジメントの学生さんがいつもおっしゃってるんですけども、地域の公共ホールっていうのは私達にとって本当にもう教科書のような存在で、様々な素敵な活動がいっぱいあるというふうにおっしゃっています。素敵なホールには、必ずいい人たちがおられるんですね。

やはり僕は、劇場を作って運営している者として、先輩たちから言われてるのは、「劇場は作るものではないと。なるものである。」というふうに常々言われております。

私も実感しております。そこに集ってくる人たちがいっぱいいます。舞台に立つ方々、客席に座る方々、運営する方々、あとは行きたくても行けない人たち、あとは全く興味がない人たち。そういった方々地域におられます。そういった方々も何気に劇場に来る可能性っていうのを秘めております。

その中で、このさらには多文化共生が大切で、しかも持続可能性が大切だと言われるこの時代の中でどのような活動をしていくのか、それはそこに集って来る方々のアイデアや工夫で活動の内容が大きく変わってくると思っております。

そこがですね、そこに集って行く方々がどこにアイデアを持つのか。例えば長野県に来てとても思うことは、教育とか学びっていうのもすごく長野県に豊かさを感じてですね。これも一つの文化だと思っております。

これから、こういった会は、地域の未来と劇場の未来、文化の未来っていうのを考えるとても大切な機会になっていくと思います。

そういった会に私も参加させていただくのをととても楽しみにしております。

私からは以上になります。どうぞよろしくお願いいたします。

○下井館長 ありがとうございます。

いろんな面白い話をいただけたかなと思います。

では、ちょっと時間の都合もありますので、早速ですけれどもこれからグループワーキングに入っていただきたいと思います。移動できる準備をしていただいて、お願いいたします。

小澤さんには、個人的には、地形から来るっていいですか、地形からくる文化っていうものをお聞きして、「ああ、そういうものかなあ」と思いました。

それでは、3班に分かれて、この後ろの方にテーブルを用意してございますので、移動をお願いして、それぞれグループワーキング入っていただきたいと思います。

もう、ちょっと移動をお願いできればと思います。

各グループではファシリテーターの学識委員の先生方にリードしていただいて、お願いいたします。

——ミニワークショップ実施——

○下井館長 それではご意見をまとめていただければと思います。

○下井館長 時間のなかで大変申し訳ございませんが、終わりの時間が決まっておりますので、それぞれ、各班で発表の方を1人ずつ、目安としては3分程度と思っておりますけれども、お願いしたいと思います。

．．．．1班．．．．

○下井館長 1班からお願いをしたいと思います。

○委員 はい、それでは1班は〇〇さんに発表をしていただきたいと思います。

〇〇さんよろしくお願いいたします。

○委員 お世話になります。

ちょっとまだ頭の中がいっぱい、きちんと整理されてなくてごめんなさい。言葉足らずかもしれませんがお願いします。

この班は、本当にたくさんの意見が出て時間が足りないくらいだったんですが、一番その中で出てきた言葉っていうのが、子供たち、自分たち含めてみんなで作っていく、みんなが活動するっていうところが一番出てきたのかなと。

あと、私達がやってること自体が文化だっていうことだとか、誰かにやらされているとかじゃなくて、本当に受身だけじゃなくて自主的な活動、どんな形にしろ、見るにしろ、演じるにしろ、支えるにしろ、いろんな形で関わっていくっていうことが、何か飯田の文化なのかなっていうことが改めて感じられました。

何か大きなものを呼ぶっていうことだけでなく、自主的な取り組みの発表だったり、関わりだったり、つながりだったりっていうことを大事にしているところが飯田なのかなあという話だったと思います。

あと、全体のところでもありましたけど、よく公民館っていうと他の地域だと、貸し出しの部屋を取る、利用するだけのところですが、飯田市の場合は文化会館もそうですし、各地域の公民館もそうですが、地域の人たちが集まって創り出すところ、文化の創造の場所になっているという話も出てきました。

例えば文化会館っていうところで考えると、空間とか建物じゃなくて人の行動がその館になっているというか、その場所になっていく。いつの間にかそういう場所に人が集まるっていうところになれたらいいなと聞いていて思いました。

先ほどの話の中にもありましたけど、地形の文化のこともあって、やっぱり飯田市のこの地形とか、自然環境の中で作られる文化っていうのをやっぱりもう一度振り返って大事にしたいなということを私も感じました。

最後に私が一番いいなと思ったのは、楽しくいろんな活動をする。みんなが、子供も大人も、みんなが楽しくできることがやっぱり、それが自然に文化になっていて、つながって、継承されて、ずっと途絶えないことがいいのかなと思いましたが。

何か補足お願いします。(拍手)

○下井館長 ありがとうございます。

．．．．2班．．．．

それでは第2班でありますけれども、よろしくお願いいたします。

○委員 第2班の方なのですが、なかなか議論が拡散してってまとまらないんで、特にまとめるつもりもありませんけども、ここでまず最初に出てきたのは飯田の文化って何なのっていう、定義からした方がいいというお話がありました。

いろんなイベントを呼んできて、ここでやって、それが飯田の文化ではないでしょうと。それよりもその後だとか、お客様の反応、それが飯田の文化じゃないのっていうような話があって、落語の会でも、やはり聞き手が盛り上げる演じ手、それから室内楽のコンサートでも同じようなことが言える。そういった文化度の高さも飯田の特徴なんだろうっていう話が出ました。

それと同時に、飯田下伊那の文化っていうと、伝統芸能とかもあるんですけども、そこまで網羅してこの新文化会館の構想の中に入れてくのかということ。それから今は文化って言われる事業自体も、あの箱の中にとどまらないものが増えてきてる。じゃあそれをどう新文化会館の構想と合わせていくのか。やっぱりそれには限界があるだろうという中で、どうこの箱物と結び付けていくのか、それからいろんな市民のニーズに対してどこまで多機能な機能を付け加えながら、新文化会館にしていくのかというようなことが話に出てたかなあというふうに思います。

まとめるつもりはありませんので、どんどん拡散していけばいいのかなと、とりあえずは思っております。（拍手）

○下井館長 ありがとうございます。

時間のない中で本当に申し訳ございません。

・・・3班・・・

それでは続いて、第3班ですが、お願いをいたします。

○委員 第3班の方ですけれども、まとめはできませんでした。いろんなご意見、感想がありましたので、いくつかを紹介をしたいと思います。

飯田の文化はというところで、いろんなお話をしたわけですけれども、まず講師の先生のお話もありましたけれども、「空間、間がある、そこに文化があるんじゃないかな」というお話もありました。それは飯田の地形が両アルプスに囲まれた間にある、そういうところから始まっているんじゃないかなっていうようなお話がありました。

それから、市民の皆さんがいろいろと参加して、いろんな活動がされている。いろんな分野で活動ができる多様性があり、活動がしやすい。活動の場が市内にある、これも大事なところじゃないかなというお話もいただきました。

それから、「外から来た文化、異なる文化を吸収し発展させる力があるんじゃないか」というお話をいただいています。興味のある文化や取り込みやすい文化を自分たちで習いそれを広めていきたい。そういう思いがある。大事にされている。そんなお話もいただきました。

りんご並木の活動みたいなのは、それぞれの生徒がそこに入って、想いをつなげて

きているところも一つの文化じゃないかなというお話もありました。

それから飯田の人は、向上心が強い。そういう人が多いんじゃないかなと、それがいろんな活動につながってるんじゃないかなというお話もいただきました。

それから、いろんな過去の歴史の中で、東と西の交通や人の流れが交わる場所でその時々文化の交流がこの飯田の地でされたことが、今の飯田市の活動の下地になってるんじゃないかな、そんなご意見もいただいておりますので、まとまりませんが、報告をさせていただきます。

以上です。（拍手）

○下井館長 はい、ありがとうございました。

それでは、ワークショップとしては、ここで一旦区切りとさせていただきます、司会の方、委員長の方にお返しをいたします。

○委員長 はい、ありがとうございました。

それでは、本日の振り返りということで、まず話題提供していただいたお二人の先生方から感想をいただきたいと思います。

○○さんお願いします。

○委員 ありがとうございました。とても勉強になりました。

飯田市の皆様、熱い、凄いと思いました。

先ほどのお話をちょっと別の角度からお話しさせていただきます。

私、公共ホールの運営というのを専門でやっておりまして、その中で最近言われてることなんですけれども、「公共ホールの役割って何だ」と言われたときに、昔からあった、昭和からあった役割というのは、やはり芸術性、芸術鑑賞ですね。それと興行性、エンターテインメントとされています。

でも、令和に入って、2000年代に入って、近年の公共ホールは、もちろんその舞台、芸術と興行、エンターテインメントっていうのは、もちろん当然あるんですけども、最近は社会的な役割と効率的な運営、持続可能な運営という、この4つが求められるようになってきました。この興行、エンターテインメントと効率的な運営、持続可能性っていうのは、難しいですけど簡単です。数値で表せられるんです。

ただ、芸術性のところと社会的な役割というのは、数値では必ずしも表せないものになってくるので難しいと言われてます。さらに難しいのは、今日ここでお話がありましたとおり、自ら設定していかなくちゃいけないことなんです。ここが非常に難しい。

自分たちがどうあるべきかっていうのを自分たちで考えて、自ら考えて作っていかなくちゃいけない部分だと言われていまして、最近アートマネジメントの人たちは、この芸術性のところはフォーアートというふうに言っていて、社会的な役割というのはパイアートと呼ばれています。アートを活用してっていうところで、さらには、芸術文化の振興をしていく役割なのか、市民文化の振興を図っていく役割なのか、都市文化の振興を図っ

ていく役割なのか、どんどん近年も発展してきておりまして、これをどこまでやるのか、何をやるのかっていうのは、絞り込みが大変だと言われていて、今日、まじまじとそここのところを見て、改めて公共ホールの運営って難しいけど面白いなと思った時間でした。

これからが、非常に楽しみになりました。これからもどうぞよろしく願いいたします。ありがとうございました。

○委員長 それでは続いて、〇〇先生お願いします。

○委員 皆さんどうもお疲れ様でした。私もファシリテーターをやらせていただきましたけれども、非常にワクワクしながら楽しく皆さんのお話をお伺いさせていただきました。

その中でやっぱり印象に残ったのは、人とそれからアクティビティ、活動に焦点が当たっているっていうのが非常に印象に残りました。

建物の話をまずするよりもまず文化、でその文化も文化そのものよりもそれを作っている人だとか活動だとかっていうお話が、非常にたくさん出てきたんですね。冒頭のあいさつで、建物を作るんじゃなくて、広場を作るイメージなんだっていうお話が出て、それを聞いたときに、私もちょっと私の分野の話で恐縮なんですけども、日本の元々の伝統っていうのは広場っていう空間を作って、そこを人が使っていくのではなくて、人の行動が空間に意味を持たせていくっていう作られ方をしてるんですね。

西欧の場合には、スクエア、プラザっていうのが作られてそこに人が集まる。日本の場合には、橋のたもとであるとか、路地であるとか、神社の境内であるとか、そういうところを人が使いこなすことによって、そこが「広場化」されるっていうのがあります。今日の皆さんの話を聞いていて、何かその「広場化」というイメージが私には湧いてきました。

何か箱があって、何かそこに外から人が来て、それを見に行くという受身の文化ではなくて、何か場所があって、そこをみんなが使って、みんなが協力して、一緒にやることによってその場所が結果として文化を発信する場所になるというような、そんなイメージを私は持たせていただきました。

非常に皆さんのお話を聞きながら、いろいろな刺激を受けることができましたので、また次回以降も活発な意見交換というのをさせていただければというふうに思います。

どうもありがとうございました。

○委員長 ありがとうございました。

それじゃあ続いて、本日オブザーバーで来ていただきました、お願いします。

○オブザーバー

オブザーバーというのは普通まとめたりしないと思うんですが、ただ、求められたら意見を言うのがオブザーバーらしいのでお話をしたいと思うんですが、非常に難しいテーマに取り組んで、この先どうなるかなという心配をいただいた方もいらっしゃると思うんですね。

ただ、これからの会議、今日もそうなんですけども、私達はどこから来たんだろう、文化ということテーマにしたときにね。私達今どこにいるんだろう、私達は本当にどこへ行きたいんだろう、では、そこへ行くための地図は持っているんだろうか、多分そんなことを話し合う機会だったかなと。これからもそうだと思います。

それぞれの活動が独自の活動で、熱くやってこられた方々なので非常に個性も強いです。

だからこそ、だからこそ自分の経験や考え方に、こういった会議で出た他の意見をリンクさせて、そしてゴールに向かっていく、そんな共同作業ができればいいなと思いました。

○委員長 ありがとうございます。

それでは最後に市長から本日の感想をお願いいたします。

○佐藤市長 長時間ありがとうございます。

感想ということですが、まずはお礼を申し上げたいと思います。

今日2時間の中で最後の30分だけワークショップという形でしたけども、多分大変お疲れになったことと思いますし、またストレスも感じたのではないかと思います。

言いたいことを全部は言えないし、で、どうしたいんだって言いたくなるし、そういう中で、これからどうやって議論が進んでいくんだろうなっていうふうに思っていたらと思います。

冒頭ごあいさつ申し上げましたけれども、「すごいしんどいことをお願いして申し訳ありません」と申し上げました。答えをすぐに、例えば、「どこにどのくらいの大きさの、どんな機能を持ったホールを作るのか」というところにすぐにいけない、多分いけなくて、いろんなことを議論しながら、なんとなくそこに、収斂していくっていうそういうプロセスはとっつてもしんどいんだと思います。

今日その一端を早速感じたんじゃないかと思うんですが、是非お付き合いいただきまして、これから約2年にわたる、こういう議論を積み重ねていくわけなんで、本当に申し訳ないと思いつつ、是非ともよろしくお願ひしたいと思います。

○委員長 ありがとうございます。

本日のメニューはここまでですけれども、ぜひ話していただいたこと、それから、グループワークでお話したそれぞれの内容を、反すうしていただいて、次回の会議に備えていただけたらと思います。

ありがとうございます。

それでは事務局にお返ししますお願いします。

6 事務連絡

○筒井補佐 それでは事務局から最後をお願いいたします。

本日、先ほど市長も申しましたとおり、いろいろ言えなかったことが多々あると思いますので、アンケート用紙をお配りしております。その用紙でも結構ですし、もうメールの方がいいよという方があれば、メールでの提出も大歓迎でございますので、ぜひ本日の感想をご記入いただいて、後日、提出いただければと思います。

また次回の第2回の整備検討委員会ですけれども、7月19日火曜日、お忙しいところを恐縮ですが、7月19日火曜日午後7時からこの会場で行いたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

7 閉 会

○委員長 では、以上で第1回の新文化会館整備検討委員会を閉会といたします。お疲れ様でした。

ありがとうございました。

閉 会 午後9時20分